

JPPFA

硬質ポリ塩化ビニル管排水継手

AS 12 : 2016

平成 28 年 3 月 1 日 改正

塩化ビニル管・継手協会

Japan PVC Pipe and Fittings Association

硬質ポリ塩化ビニル管排水継手

AS 12 : 2016

1 適用範囲

この規格は、本管側に**JIS K 6741**「硬質ポリ塩化ビニル管」の無圧輸送用管の呼び径200～300を使用する排水設備で接着接合に用いる硬質ポリ塩化ビニル管継手（以下、継手という。）について規定する。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）を適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版を（追補を含む。）適用する。

JIS B 7502 マイクロメータ

JIS B 7507 ノギス

JIS K 6741 硬質ポリ塩化ビニル管

JIS K 6815-1:2002 熱可塑性プラスチック管—引張特性の求め方—第1部：一般試験方法

JIS K 6815-2:2002 熱可塑性プラスチック管—引張特性の求め方—第2部：硬質塩化ビニル（PVC-U）管，耐熱性硬質塩化ビニル（PVC-C）管及び耐衝撃性硬質塩化ビニル（PVC-HI）管

JIS K 6816 熱可塑性プラスチック管及び継手—ビカット軟化温度試験方法

JIS K 6900 プラスチック—用語

JIS S 3200-1 水道用器具—耐圧性能試験方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

3 用語の定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、**JIS K 6900** によるほか、次による。

3.1 形式検査

品質が、設計で示す全ての性能に適合するか否かを判定するための検査。

3.2 受渡検査

製品を受け渡す場合に、必要と認められる性能に適合するか否かを判定するための検査。

4 形状による略号

継手の形状による略号は、**表1** による。

表1 形状による略号

形状	略号
90° 大曲がりエルボ	LL
45° エルボ	45L
90° 大曲がりY	LT
径違い90° 大曲がりY	
45° Y	Y
径違い45° Y	
ソケット	DS
インクリーザ	IN

5 性能

継手は、表2 に示す性能項目の規定に適合しなければならない。

表2 性能

性能項目	性能	適用箇条
引張降伏強さ MPa	45 以上	9.1.1
耐圧性	破損があってはならない。	9.1.2
偏平性	割れ及びひびがあってはならない。	9.1.3
ビカット軟化温度 °C	76 以上	9.1.4

6 外観及び形状

6.1 外観

継手の外観は、内外面が滑らかで、使用上支障となるきず、割れなどの欠点があってはならない。

6.2 形状

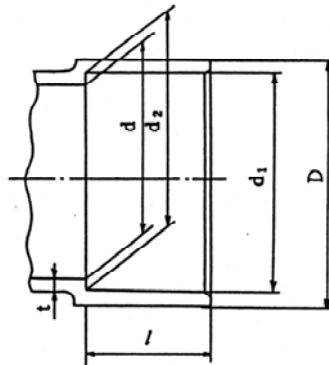
継手の形状は付図 1 ～付図 8 による。接合部は実用的に正円の断面をもち、その端面は、継手の軸に対して直角でなければならない。

なお、外面の適切な箇所に、補強のためのリブを付けることができる。

7 寸法及びその許容差

継手の寸法及びその許容差は、表3 及び付図 1 ～ 付図 8 による。

表3 接合部寸法及びその許容差



単位 : mm

呼び径	$d_1^{a)}$		$d_2^{a)}$		l	D	d	t	
	基本寸法	許容差	基本寸法	許容差	最小寸法	最小寸法	最小寸法	最小寸法	
本管側 受口	200	217.30	0 -0.55	214.70	±0.55	105	227	202	5.5
	250	268.55	0 -0.60	265.45	±0.60	125	280	250	6.5
	300	319.75	0 -0.65	316.25	±0.65	140	333	298	7.5
支管側 受口	150	166.05	0 -0.45	163.95	±0.45	82	175	154	5.1

注^{a)} d_1 及び d_2 は、直角2方向以上の内径測定値の平均値とする。

8 材料

継手の材料は、ポリ塩化ビニルを主体とし、安定剤、顔料などを加えたものとする。

なお、可塑剤及び可塑剤を含む材料は用いてはならない。

9 試験方法

9.1 性能試験

9.1.1 引張試験

継手の引張試験は、JIS K 6815-1:2002及びJIS K 6815-2:2002 によって行う。ただし、試験片及び状態調節については、次によってもよい。

a) 試験片

供試継手から受渡当事者間の協定により適切な試験片を作製する。

b) 状態調節

試験片は、23°C±2°Cで60分間以上、状態調節を行う。

9.1.2 耐圧試験

継手の耐圧試験は、JIS S 3200-1 による。ただし、試験水圧は0.35MPaとする。

9.1.3 偏平試験

継手の偏平試験は、試験片として供試継手の接合部分から、接合長さ l (許容差 $\begin{matrix} 0 \\ -10 \end{matrix}$ mm) の試験片

を切り、これを23℃±2℃で60分間以上状態調節後、2枚の平板間に挟み、試験片の軸に直角の方向に10mm/min±2mm/minの速さで、試験片の外径が、その1/2になるまで圧縮し、継手外表面を目視によって調べる。

なお、試験温度は23℃±2℃とする。試験片を圧縮する平板の寸法は、1/2まで圧縮したとき、変形した試験片より十分大きくする。

9.1.4 ビカット軟化温度試験

継手のビカット軟化温度試験は、JIS K 6816による。

9.2 外観及び形状

継手の外観及び形状は、目視によって調べる。

9.3 寸法

継手の寸法は、JIS B 7502 に規定するマイクロメータ、JIS B 7507 に規定するノギス、又はこれらと同等以上の精度をもつものを用いて測定する。角度は分度器などを用いて測定する。

9.4 試験結果の数値の表し方

9.1.1 及び9.1.4 の試験の結果は、表 2 の性能に規定する数値より 1 桁下の位まで求めてJIS Z 8401 によって規定の数値に丸める。

10 検査

継手の検査は、形式検査と受渡検査とに区分し、それぞれの検査項目は次による。各項目は、この規格に適合しなければならない。

なお、検査の試料の採取方法は、受渡当事者間の協定による。

a) **形式検査** 形式検査は、次の項目について行う。

- 1) 引張降伏強さ
- 2) 耐圧性
- 3) 偏平性
- 4) ビカット軟化温度
- 5) 外観及び形状
- 6) 寸法

b) **受渡検査** 受渡検査は、次の項目について行う。

- 1) 外観及び形状
- 2) 寸法

寸法は、接合部だけを検査する。

11 表示

11.1 継手の色

継手の色は、灰色とする。ただし、受渡当事者間の協定によって、その他の色を用いてもよい。

11.2 継手の表示

継手の外側には容易に消えない方法で、次の事項を表示しなければならない。

a) 呼び径

- b) 製造年又はその略号⁽¹⁾
- c) 製造業者名又はその略号
- d) 形状又はその略号⁽¹⁾

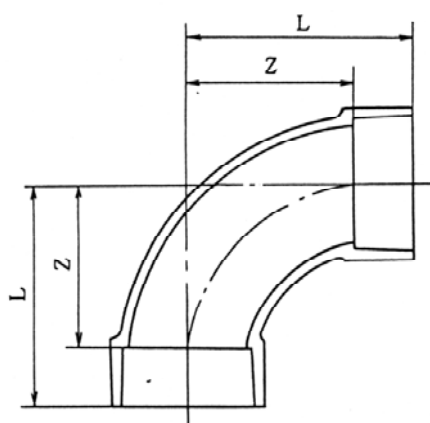
注⁽¹⁾ 一製品ごと又は一包装ごとに表示するものとする。

11.3 取扱い上の注意事項

取扱い上の注意事項を、取扱説明書、技術資料などに記載し、これらを読む旨を製品、包装、送り状などに表示することが望ましい。

注意事項の例を次に示す。

- a) 継手には、高所からの落下、放り投げなどによる過度の衝撃を加えない。
- b) 継手には、直接ねじを切ってはならない。
- c) 継手には、継手の材質に悪影響を及ぼす物質、（例えば、アセトン、シンナー、クレオソート、殺虫剤、白あり駆除剤など）の吹き付け、塗布、接触などを行ってはならない。
なお、上記物質が直接継手に接触しない場合であっても、例えば、継手が浅く埋設されている場合、上記物質を地面にこぼすと、地中に浸透することによって、継手が侵される場合があるので注意をしなければならない。
- d) 接着起因の事故を防ぐため、次の事項を守らなければならない。
 - 1) 接着剤は、継手の種類に応じた適正なものを使用し、必ず、清掃した管と継手との接合面の両面に薄く均一に塗布し、速やかに接合し、規定の時間、挿入力を保持する。
 - 2) 接合後は、はみ出した接着剤をふきとる。施工に当たっては、管内に充満する接着剤の溶媒蒸気を追い出すために、換気などの対策を講じる。
- e) 継手を屋外で保管する場合は、直射日光を避けるため、熱気のこもらない方法でシート掛けをするなどの対策を講じる。
- f) 不等沈下、温度変化などによる伸縮に対応するため、必要に応じ適切な場所に可とう性のある継手を設置するなどの対策を講じなければならない。

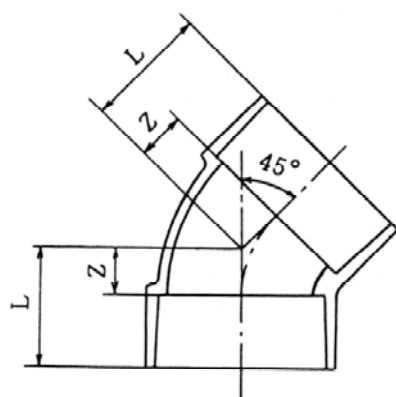


単位 mm

呼び径	Z ^{a)}	L ^{b)}
200	196	301
250	226	351
300	250	390

注記 流れ角度については1.17° (1° 10') の勾配を付けることができる。
注^{a)} Zの許容差は±3mmとする。
注^{b)} Lは参考値とする。

付図1 大曲がりエルボ (LL)

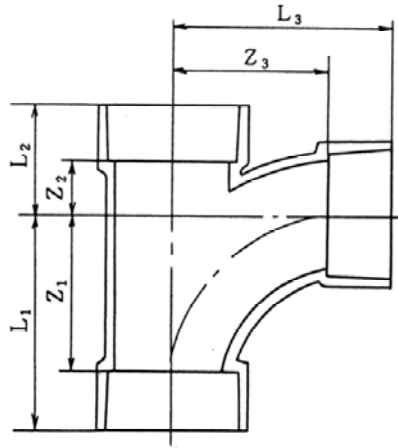


単位 mm

呼び径	Z ^{a)}	L ^{b)}
200	48	153
250	58	183
300	70	210

注^{a)} Zの許容差は±3mmとする。
注^{b)} Lは参考値とする。

付図2 45° エルボ (45L)

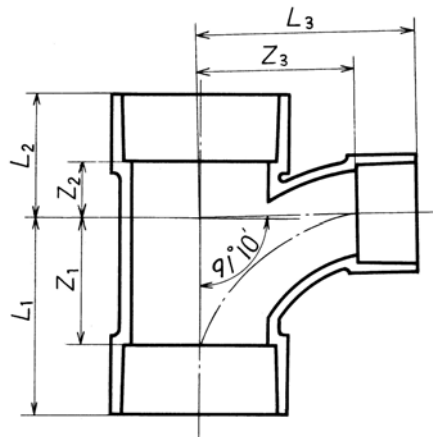


単位 mm

呼び径	Z ₁ ^{a)}	Z ₂ ^{a)}	Z ₃ ^{a)}	L ₁ ^{b)}	L ₂ ^{b)}	L ₃ ^{b)}
200	196	88	196	301	193	301
250	226	110	226	351	235	351

注記 流れ角度については1.17° (1° 10')の勾配を付けることができる。
注^{a)} Z₁, Z₂及びZ₃の許容差は±3mmとする。
注^{b)} L₁, L₂及びL₃は参考値とする。

付図3 90° 大曲がりY (LT)

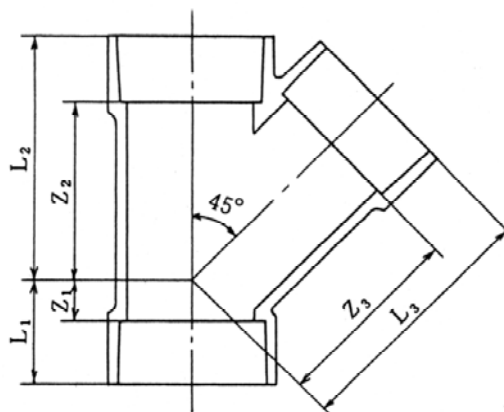


単位 mm

呼び径	Z ₁ ^{a)}	Z ₂ ^{a)}	Z ₃ ^{a)}	L ₁ ^{b)}	L ₂ ^{b)}	L ₃ ^{b)}
200×150	170	57	196	275	162	278

注記 流れ角度については1.17° (1° 10')の勾配を付けることができる。
注^{a)} Z₁, Z₂及びZ₃の許容差は±3mmとする。
注^{b)} L₁, L₂及びL₃は参考値とする。

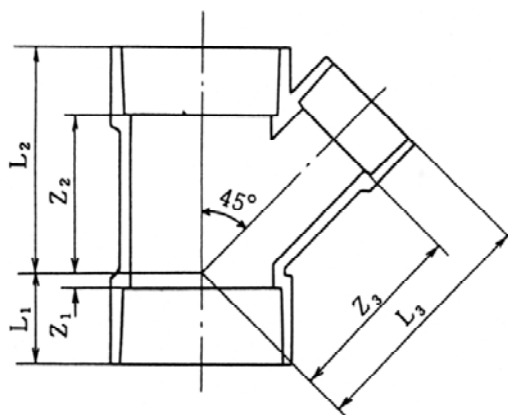
付図4 径違い90° 大曲がりY (LT)



単位 mm

呼び径	Z ₁ ^{a)}	Z ₂ ^{a)}	Z ₃ ^{a)}	L ₁ ^{b)}	L ₂ ^{b)}	L ₃ ^{b)}
200	42	258	268	147	363	373
注 ^{a)} Z ₁ , Z ₂ 及びZ ₃ の許容差は±3mmとする。 ^{b)} L ₁ , L ₂ 及びL ₃ は参考値とする。						

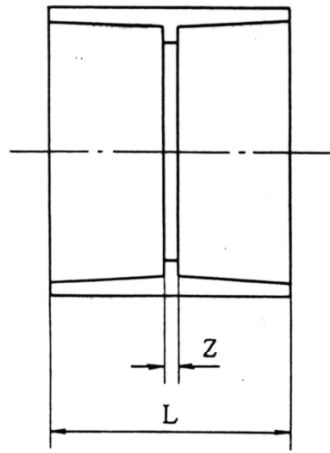
付図5 45° Y (Y)



単位 mm

呼び径	Z ₁ ^{a)}	Z ₂ ^{a)}	Z ₃ ^{a)}	L ₁ ^{b)}	L ₂ ^{b)}	L ₃ ^{b)}
200×150	7	224	243	112	329	325
注 ^{a)} Z ₁ , Z ₂ 及びZ ₃ の許容差は±3mmとする。 ^{b)} L ₁ , L ₂ 及びL ₃ は参考値とする。						

付図6 径違い45° Y (Y)

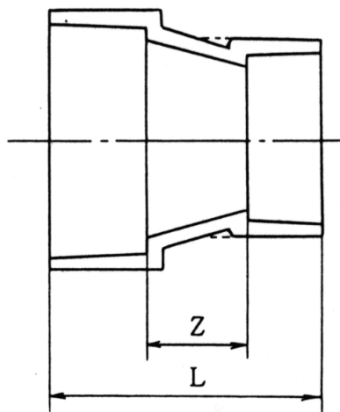


単位 mm

呼び径	Z ^{a)}	L ^{b)}
200	5	215
250	6	256
300	7	287

注^{a)} Zの許容差は±3mmとする。
 注^{b)} Lは参考値とする。

付図7 ソケット (DS)



単位 mm

呼び径	Z ^{a)}	L ^{b)}
200×150	50	237
250×200	60	290
300×250	70	335

注記 破線で示す形状にすることもできる。
 注^{a)} Zの許容差は±3mmとする。
 注^{b)} Lは参考値とする。

付図8 インクリーザ (IN)